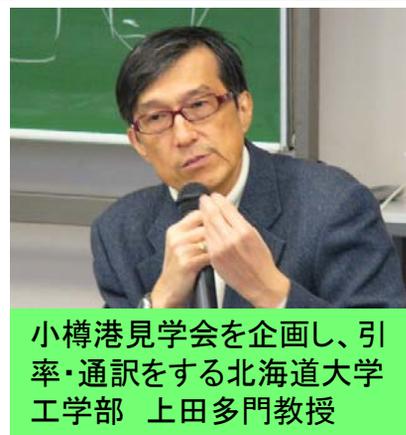


# 日中の大学生、小樽港を学ぶ

## ～大連理工大学・北海道大学の現地見学会～



小樽港見学会を企画し、引率・通訳をする北海道大学工学部 上田多門教授



日本初の外洋防波堤を見学

1月13日(金)中国の大連理工大学建設工学部と北海道大学工学部の大学生34名が、座学及び現地見学に小樽港湾事務所を訪れました。

座学では、事務所職員が100年を経て今なお現役で機能し、日本初の外洋防波堤でもある小樽港北防波堤の着工と現在を講義しました。

終了後は2名の方から「建設以来、100年経った今でも耐久性の試験をしているのか?」、「北防波堤を補修せずに作り直したら、コストはどのくらい?」と質問があり、「廣井博士は50年に亘る長期耐久試験を必要としたことと、現在のコンクリート強度試験と試験方法が違うことから、現在は行っていない。」「防波堤本体である斜塊部の健全が確認されていることから、基礎である階段部の捨塊の再生などマウンド部の補修で充分と判断している。」とそれぞれ回答しました。



座学終了後、質問する大連理工大学生

### 大連理工大学

中国の国家重点大学の一つ。中国東北地方随一の大学で1949年に創立された。理工学部だけではなく文化系学部も併せ持ち、日本の大学との交流も盛んで、日本からの留学生も多い。



北防波堤を構造模型で説明

みなと資料館では、北防波堤の構造モデルや建設写真、約100年前の供試体等について事務所職員から説明を受け、見学しました。大学生らは通訳を介して説明に真剣に耳を傾け、写真に収める方も多数おり、興味深く見学していました。



日本初斜路式ケーソン製作台模型でケーソン製作・進水の模様を説明



供試体の保管状況を見学



海水に浸して保管

最後に北防波堤を現地見学し、参加者から「中国にはこのような施設はなく学ぶことが多い。50年に亘る長期耐久試験を命じたことと、その供試体が現在も保管されていることが興味深かった。」「廣井勇博士が日本人の手による港湾整備において100年以上前に、計画、調査、設計と確認のための試験など、非常に将来を見越しながら行ったことが学べて有意義だった。」と感想を頂きました。



北防波堤現地見学



この見学会は、約1週間で東大・東工大・京大・北大を巡る大連理工大学の見学旅行の一環として行われ、終了後は小樽市内を観光し、一行は宿泊地の洞爺湖へ向かいました。